

## 8 章 場のデザイン

### 8.1 場のデザインとは

河川の微地形や構造物の配置、規模、形状、材質、色彩等を考え、ある場所における河川空間を整えるデザインのことを「場のデザイン」と呼ぶこととする。

「場のデザイン」の対象は、河川整備計画等に基づき個々の地先で検討される一定区間の改修計画や具体的な河川管理施設等の計画・設計等である。具体的には、堰や堤防等の構造物の設計、ある場所における構造物や植物等の配置計画等が該当する。

場のデザインにおいては、「2.3 河川景観デザインの心得」に示した 8 つの心得のほか、河川の安全性の確保とともに、以下の点に配慮することが大切である。

- (1) 立体的デザイン（平面図や断面図のうえでデザインを行うのではなく、立体的な河川空間のなかでデザインを行う）
- (2) 連続と分節のバランス（輪郭線を曖昧にしたり、まとまり感を明瞭にしたりする等、空間の連続や分節が適度にバランスするようなデザインを行う）
- (3) 風土にあった色彩や素材（自然の営みや人々の営みが形成した風土にあった色彩や素材を用いたデザインを行う）
- (4) 自然の形態の理解と表現（自然の営みの上に成り立っている河川空間の形態を理解し、それを活かしたデザインを行う）
- (5) 人々の利用への配慮（人々の利用が考えられる場所については、活動のしやすさ、居心地の良さ、動線等を十分に考慮したデザインを行う）

場のデザインにおいては、6 章、7 章にもとづく検討結果をふまえて、以下の流れで検討する。

6 章の「河川景観を読む」で整理した当該区間の「河川景観の特徴」や「景観構成要素」を抽出し、さらに 6 章で整理した「河川景観の目標」をふまえて、その空間において特に保全・再生すべき要素を明らかにする。

7 章の「骨格のデザイン」をふまえ、保全・再生すべき要素に対してどのような場のデザインを行うかを検討する。

場のデザインに際しては、これまでの検討と同様に、「2.3 河川景観のデザインの心得」で示した 8 つの点を常に念頭においてデザインするものであるが、具体的な形とする際の原則としては以下の点に配慮する必要がある。

#### 立体的デザイン

設計する際に標準横断面だけで考えてしまうと、どこで断面を切っても同じ断面となり、単調な空間は見た目にも生態的にも好ましくないデザインとなってしまう。自然的な河川においては元々あった自然の河道の変化を参考にする、都市的な河川においては

親水性、視点場、その他都市の様々な活動が可能となるような場を組み合わせること等により立体的なデザインを行うことが大切である。

### 連続と分節のバランス

場のデザインにおいては、対象の周囲にある空間に対する連続・分節の影響力を認識し、連続と分節のバランスをとってデザインを行うことが大切である。例えば堤防は堤内地と堤外地の境界となるものであるが、水面から水際、堤防、河川周辺の街並みに連続性を感じられるように素材や形状に統一感を持たせることが「連続」であり、逆に堤防上の空間を、護岸の形状や植栽によって、人の利活用を重視した空間と自然性を重視した空間に分けることが「分節」である。どちらか一方に偏るのではなく、対象地の特性に応じてバランスよく計画することが大切である。

### 風土的な色彩と素材

河川景観は、自然の営み・人の営みによって形成されるものであり、景観構成要素である河原の石、屋根の瓦等の色彩や素材は、その土地の風土が形になって現れたものとも言える。場のデザインに際しては、この風土を理解し、風土にあった色彩と素材を使うことが大切である。

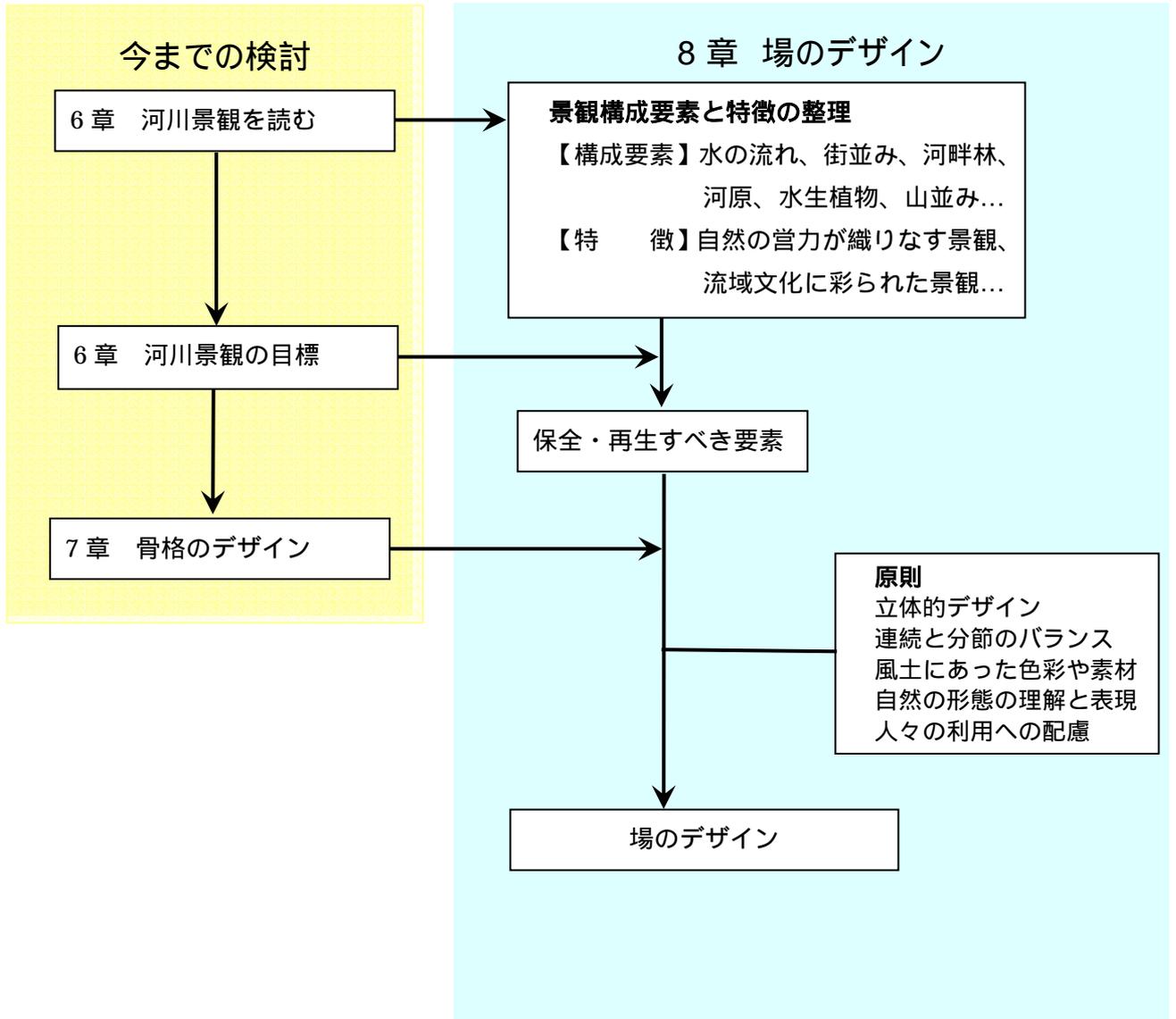
### 自然の形態の理解と表現

河川は自然の変動の上に成り立っているものであり、水の流れも砂州も植物も変化し続けるものである。人が自然の営みを無視して河川をデザインしても、自然の営みとかがみ合わないものになってしまう。水の流れ等の自然の形態を理解し、それを活かしたデザインを行うことが大切である。例えば流れの速い水際に、河口部にあるようなヨシ原を整備しようとしても流されて当初の目標像には至らないことから、その場所に合った植生の回復を行うべきである。

### 人々の利用への配慮

周辺の利用との関係性を考慮せず広場等を整備しても人々は集まらない。また人々の利用には活動的なもの、静かに安らぐもの等の様々な形が考えられる。人々の利用を促進しようとする場所においては、人々をその場所に誘引する魅力の創出、動線・案内板への配慮によるアクセスの向上、利用形態に応じたデザインを行うことが大切である。

本章においては、以上のような考え方を、事例をもとに解説するとともに、その解説は、立体的な構成が理解されやすいように断面図中心ではなく、写真を中心に行っている。



場のデザインの検討手順

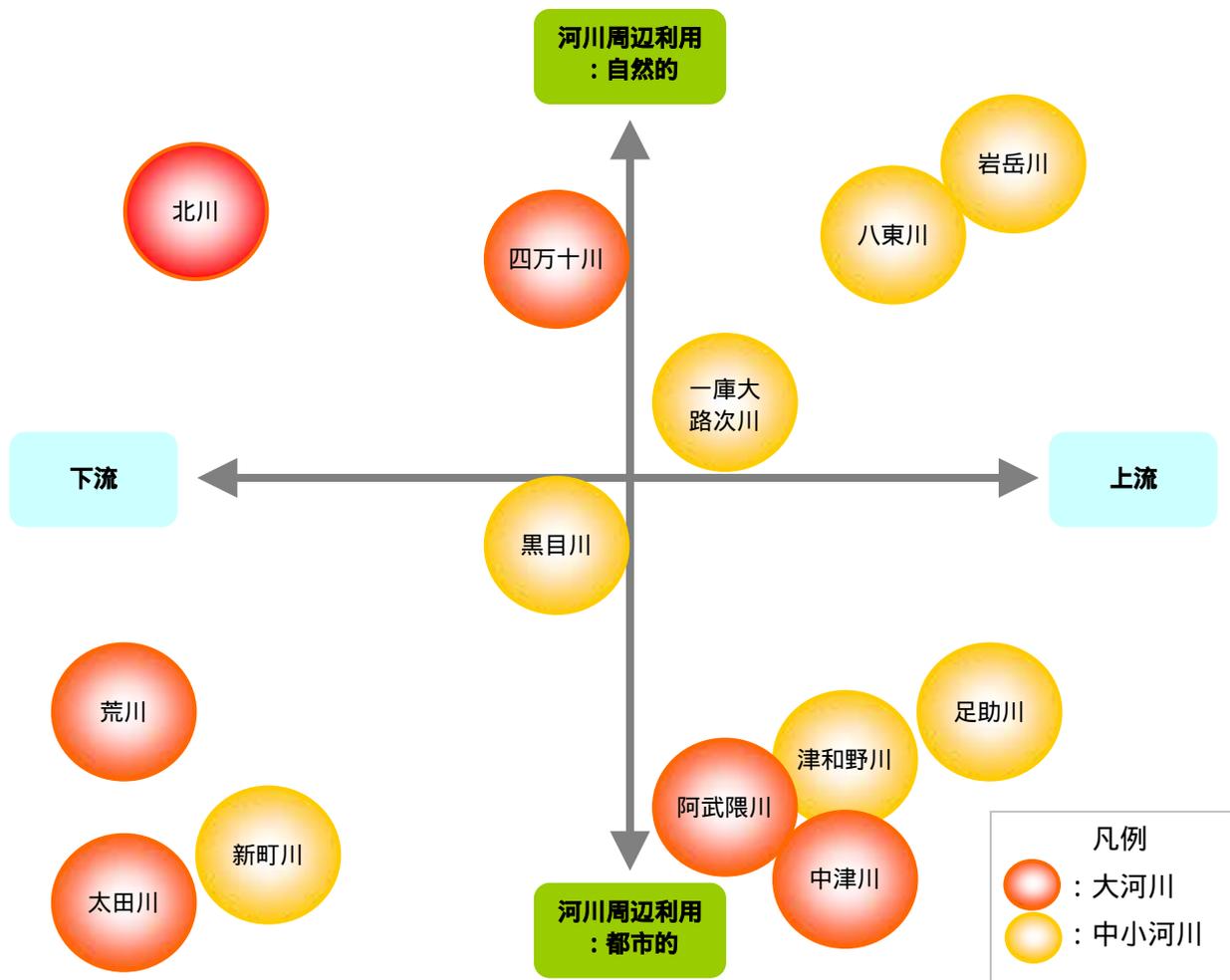
## 8.2 地域性と場のデザイン

河川景観は、流域の自然の営みや人々の営みが相互に関係しながらかたちづくられてきたものであり、流域や地域の自然の特性や社会の特性が多様であるように、極めて地域性が高く、それが個々の河川における景観の特徴となっている。

場のデザインにおいては、その河川の地域性を理解し、2章で紹介した「河川景観の特徴」を参考として、特に配慮すべき特徴を把握したうえで、具体的な方策を考えていくことが大切である。

河川の地域性を分類する例として、河川の流程、河川周辺の土地利用の2つの評価軸によるのが考えられる。同じ中流部の河川であっても河川の規模や河川周辺の土地利用によって河川景観の特徴が異なることから、河川景観を考えるにあたっては、この地域性の理解（評価軸における当該河川の位置づけ）が必要となる。

8.2で紹介する事例は、地域性による分類を概ね含めた河川の事例をもとに構成している。



## 8.2 の使い方

STEP1 対象河川と似た地域性を持つ事例を探す



STEP2 事例を参考に対象河川の景観構成要素、特徴を把握する



STEP3 対象河川の特徴を活かす配慮事項を、事例・原則等を参考に検討する

### ■自然の形態に学ぶデザイン

福岡県

#### ■概要

山間地の河川景観の特徴は、ステップ&プールの瀬・淵構造と河畔表される。このステップ&プールの瀬・淵構造と河畔林をいかに維持するかがポイントとなる。岩岳川では、まだ技術的に確立されていないステップ&プールの試みた事例である。ステップ&プールの瀬・淵構造の形成には川幅に変化のある的な平面形が必要だが、岩岳川では河道を一定幅にした点に課題が残る。

#### ■岩岳川の河川景観を読み解く

瀬と淵の連続するダイナミックな流れが、水の流れに多様な表情をうみ、巨石等の不均一な配置・構成、河岸からせり出す河畔林を伴って上流域の自然的河川らしい景観となり、生態系の基盤ともなっている。

- 山に囲まれた谷部を流れる急勾配の中小河川
- 瀬と淵が連続するダイナミックな流れ
- オーバーハングした河畔林
- 河道内の巨石

オーバーハングした河畔林は、渓流の特色であり、落下箇所で、生態系的な機能を果たしている。

#### ■特徴を活かすデザイン配慮事項

川の流れのダイナミズムは変動を伴うものであり、景観創出のために固定的に瀬・淵を復元することは難しい。岩岳川においては、瀬と淵を、ある程度人工的に創出することを試みている。

- 山地河川の自然的河川景観であるステップ&プールのサイクルを復元する。
  - ・河床の岩等から平常時のみお筋と高水時の流心線把握して瀬と淵を配置する。
  - ・落蓋工を上流の凸型アーチ状とし、水流を中央に集中させ淵を維持する。
  - ・河床の動きを干渉し、河岸を固めないように施工する。



いよかけがわ  
・岩岳川

林に代  
観の景  
再生を  
非均一

河川類型：上流区間、自然的河川、中小河川  
 河川景観の特徴：自然の営力が織り成す景観。表情豊かに流れる水が存在する景観  
 工種：葎差工、転石  
 デザインキーワード：ステップ&プールの形成、河畔林保全

シロクマ川に代  
観の景  
再生を  
非均一



河床に違和感を持たせないために、  
現地で発生した転石を利用する。

直線的な護岸は人工的な印象を強調す  
ることから護岸に凹凸の変化を持たせる。  
しかし少し段になっており、違和感がある。

- デザイン配慮事項はデザインの原則別に  
以下のように色分けした。
- 立体的デザイン.....
  - 連続と分節のバランス.....
  - 風土的な色彩と素材.....
  - 自然の形態の理解と表現.....
  - 人々の利用への配慮.....
  - その他.....

河川		分類			自然の営力が 織り成す景観	固有の生態系を 有する景観	表情豊かに流れる 水が存在する景観	広がりや連続性を 感じさせる景観	時間により 移ろう景観	人間の営為が 反映された景観	流域文化に 彩られた景観	水との触れあいと 賑わいのある景観
		流程	河川周辺利用	河川規模								
	岩岳川	上流	自然的	中小								
	八東川	上流	自然的	中小								
	足助川	上流	都市的	中小								
	津和野川	上流	都市的	中小								
	中津川	上流	都市的	中小								

	一庫大路次川	中流	自然的	中小									
	黒目川	中流	都市的	中小									
	阿武隈川	中流	都市的	大									
	四万十川	中流	自然的	大									
	荒川	下流	都市的	大									
	北川	下流	自然的	大									
	太田川	下流	都市的	大									
	新町川	下流	都市的	中小									

河川景観の特徴については、定量的な評価を行ったものではなく、特徴の現れ方の度合いを大 中 小 の3つで表現したものである。

写真の出典については、各事例の頁を参照のこと。

## 概要

山間地の河川景観の特徴は、ステップ&プールに代表される瀬・淵構造と溪畔林に代表される。このステップ&プールの瀬・淵構造と溪畔林をいかに維持するかが景観のポイントとなる。岩岳川では、まだ技術的に確立されていないステップ&プールの再生を試みた事例である。ステップ&プールの瀬・淵構造の形成には川幅に変化のある非均一的な平面形が必要だが、岩岳川では河道を一定幅にした点に課題が残る。

## 岩岳川の河川景観を読み解く

瀬と淵の連続するダイナミックな流れが、水の流れに多様な表情をうみ、巨石等の不均一な配置・構成、河岸からせり出す河畔林を伴って上流域の自然的河川らしい景観となり、生態系の基盤ともなっている。

山に囲まれた谷部を流れる急勾配の中小河川  
瀬と淵が連続するダイナミックな水の流れ  
オーバーハングした河畔林  
河道内の巨石

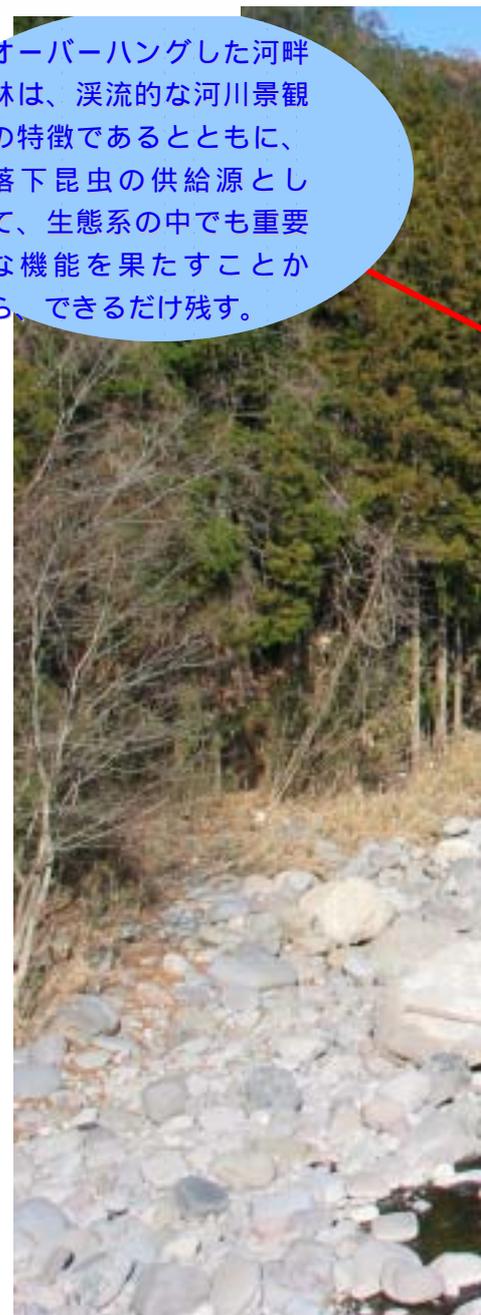
## 特徴を活かすデザイン配慮事項

川の流れのダイナミズムは変動を伴うものであり、景観創出のために固定的に瀬・淵を復元することは難しい。岩岳川においては、瀬と淵を、ある程度人工的に創出することを試みている。

山地河川の自然な河川景観であるステップ&プールのサイクルを復元する。

- ・河床の岩等から平常時のみお筋と高水時の流心線を把握して瀬と淵を配置する。
- ・落差工を上流の凸型アーチ状とし、水流を中央に集中させ淵を維持する。
- ・河床の動きを予測し、河岸を固めないように施工する。

オーバーハングした河畔林は、渓流的な河川景観の特徴であるとともに、落下昆虫の供給源として、生態系の中でも重要な機能を果たすことから、できるだけ残す。



河川類型：上流区間、自然的河川、中小河川

河川景観の特徴：自然の営力が織り成す景観、表情豊かに流れる水が存在する景観

工種：落差工、転石

デザインキーワード：ステップ&プールの形成、河畔林保全



河床に違和感を持たせないために、  
現地で発生した転石を利用する。

直線的な護岸は人工的な印象を強調す  
ることから護岸に凹凸の変化を持たせる。  
しかし少し段になっており、違和感がある。

岩岳川の特徴である、ダイナミックな水の  
流れを維持するために、人工的にステップ&  
プールの構造を創出する。その結果、淵は  
大きくなっている。

提供：島谷幸宏

## 写真



上流側 未整備  
コンクリートに固められ、砂が堆積し  
河床が平坦化していた。

提供：島谷幸宏



整備区間  
ステップ&プールが連続する河川景  
観を取り戻した。

提供：島谷幸宏



天端の石を波状に配置したことにより大  
小の落差ができた。アユやヤマメ等の魚類  
の移動も可能である。

提供：福岡県豊前土木事務所



工法の正確な理解と施工技術の習得、  
および的確な施工を行うために、現地  
にて専門家に指導を受けながら施工  
した。

提供：福岡県豊前土木事務所

### 洪水時の流れを読んで、瀬・淵をつくる

岩岳川では、洪水時の流れを予測したうえで、河岸を固めずに施工を実施している。平成 17 年の台風 14 号で大増水を経験したが、その後もステップ&プールは維持されている。



台風による出水の様子  
提供：福岡県豊前土木事務所



台風通過後

提供：福岡県豊前土木事務所

## 図面

ステップ&プールのサイクルを復元するにあたっては、施工区間の上下流を含めて高水時のみお筋を把握して淵のできる状況を想定し、平常時の蛇行サイクル、瀬・淵の位置を計画した。

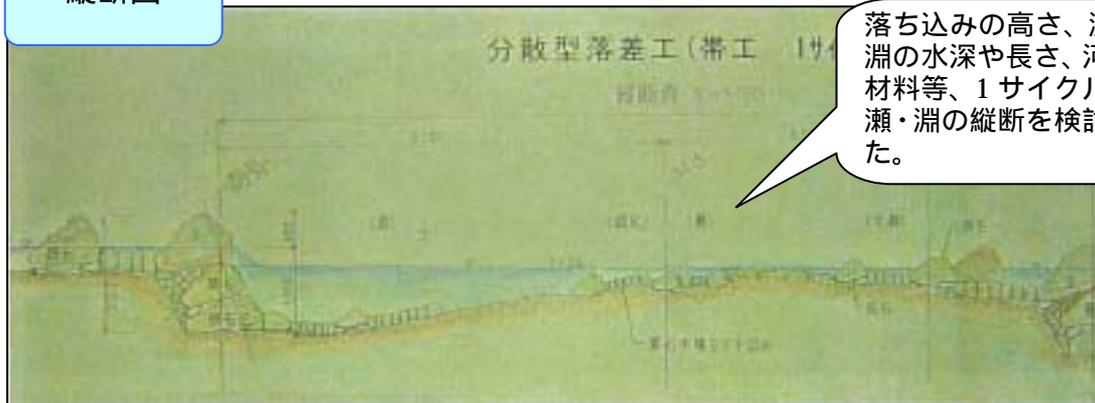
### 平面図



高水時のみお筋を把握して、淵のできる状況を想定し、平常時の蛇行サイクル、瀬・淵の位置を計画した。

提供：福岡県豊前土木事務所

### 縦断面図



提供：福岡県豊前土木事務所

# 瀬・淵を復元するデザイン

はっとうがわ  
鳥取県・八東川

## 概要

上流の河川景観の特徴は、河道の平面線形に密接に関係する瀬・淵構造と水際線に代表され、河道の平面線形にあった瀬・淵構造の形成と、水際線を単調にせず周辺と一体化した空間を形成することが景観のポイントとなる。八東川は、畑地として利用されていた旧河道に通水し、瀬・淵を復元した事例である。瀬・淵は、古老に聞きながら昔あった位置に復元している。水際線は、石積みや柳枝を用い単調にならないようにしている。低水路を固定した観がややあるが、もとの河川の地形を尊重しているため、美しい景観が形成されている。

## 八東川の河川景観を読み解く

山地の地形に応じて河川が蛇行して流れ、その線形に応じて形成される瀬と淵、山間地の人の営みが上流域の自然的河川らしい景観となっている。八東川では、川を直線化したことによって、その流れの変化、瀬と淵を失ってしまったことから、その復元が大切な点と言える。

山に囲まれた里地を流れるひっそりとした中小河川  
川の蛇行が形成する自然な瀬と淵（かつてあった姿）  
山を背景とし、人の生活と水の流れと河畔林が一体となった環境

## 特徴を活かすデザイン配慮事項

旧河道というもともとの自然のモデルを利用してかつてあった姿を復元する。

古老に話を聞いて、昔の淵の場所を明確にし、復元する。

淵の下流に帯工を設け、淵の水深を確保する。帯工は、Vシェープを取り入れ、魚類の移動に配慮する。



石積み護岸が連続する中で、植物が生育することによって、生物にも人の目にもやさしい景観となる。ここではネコヤナギを挿し木にすることによって活着に成功している。

河川類型：上流区間、自然的河川、中小河川

河川景観の特徴：自然の営力が織り成す景観、表情豊かに流れる水が存在する景観  
広がりや連続性を感じさせる景観

工種：柳枝工、帯工、空石積み護岸

デザインキーワード：流下能力の向上、河道の復元、流量の確保、自然素材の活用



オーバーハングした河畔林は、溪流的な河川景観の特徴であるとともに、落下昆虫の供給源として、生態系の中でも重要な機能を果たすことから、できるだけ残す。

護岸の石を、周辺の景観と馴染ませるためには、大きさ、質感を揃えるため、現地の材料を用いることが望ましい。

出典：まちと水辺に豊かな自然を

## 写真



施工前  
旧河道は畑地となっていた。ここに、洪水の3割を流す計画とした。

出典：まちと水辺に豊かな自然を



施工後  
瀬・淵が復元した美しい自然な景観を取り戻した。

出典：まちと水辺に豊かな自然を



施工直後（平成4年）  
古老に聞いて復元した淵

提供：皆川朋子



施工後（平成17年）  
施工直後よりも川幅が縮小している。流量に見合った川幅に変化したと考えられる。

提供：皆川朋子



水裏部には、杭柵工と空石積みを組み合わせた、

提供：皆川朋子

### 模型実験

本川と派川の流量配分については、模型実験を行ない、分派点の形状等を決定した。

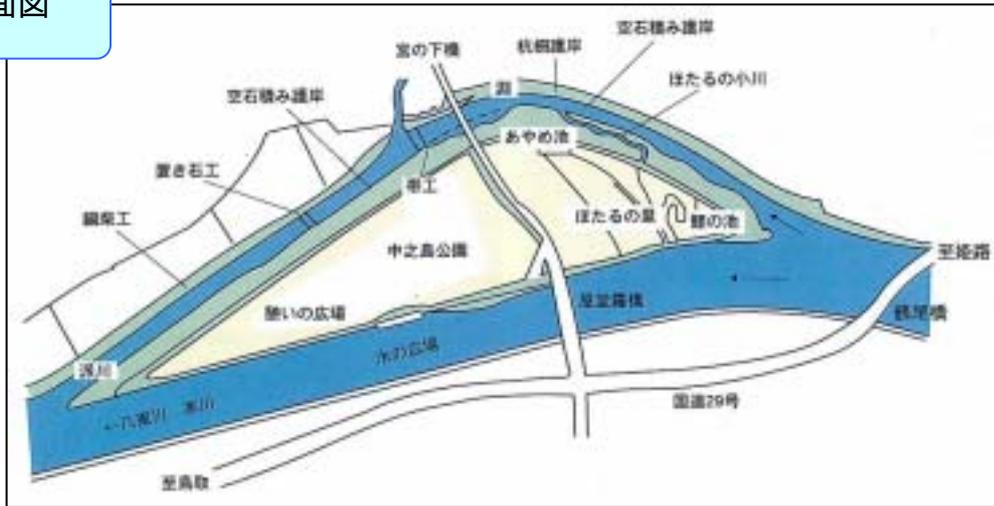
さらに、渇水期の流量の確保についても、模型実験により検証している。



出典：まちと水辺に豊かな自然を

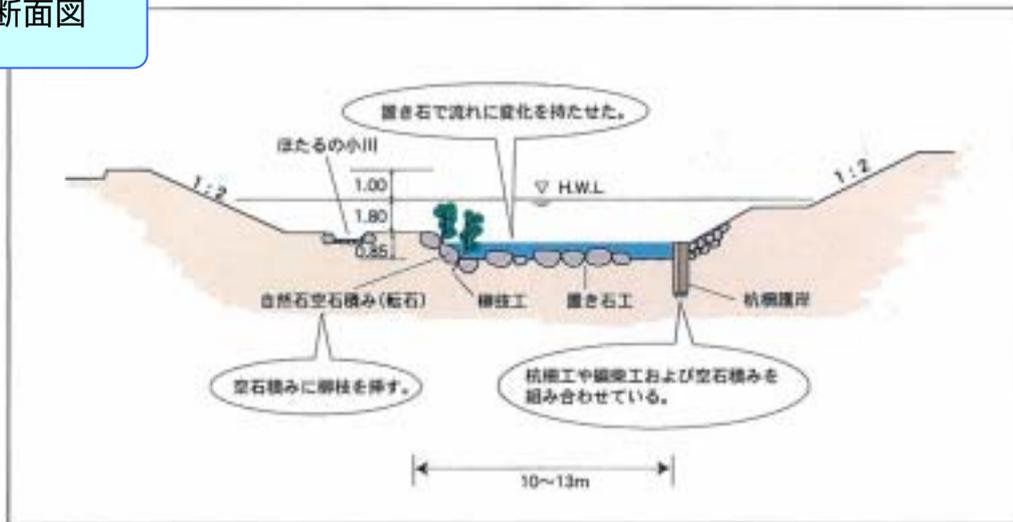
## 図面

### 平面図



出典：まちと水辺に豊かな自然を

### 断面図



出典：まちと水辺に豊かな自然を

# 既存の構造物を活かすデザイン

あすけがわ  
愛知県・足助川

## 概要

足助川は、上流の河川周辺に古い街並みが連なる歴史的景観を呈している代表事例である。かつての石垣はそれぞれの家で建造しているため、均一的でない個性的な表情を見せている。足助川では、個々の石垣を尊重しその前面に遊歩道を設けた。現在行なわれている一般的な護岸整備では、個々の石垣を再現することはあまりされず直線的で連続的な整備が多い。足助川は、石垣に代表される歴史的景観を保全・復元する際の参考になる事例であるが、遊歩道の鉄平石の使い方や、家屋が川側を向いていないことには課題が残る。

## 足助川の河川景観を読み解く

河岸まで住居等がせり出し、川と人の生活空間が一体となっている点が上流域の都市的河川らしい景観となっている。

足助川においては、住居を支える石積みの連続、河岸沿いに歩ける道、住居から直接川に降りられる階段が特徴的な景観を形成している。

山間の風情のある街中を流れる中小河川

河岸に隣接した住居と、それを支える石積みと水辺に降りられる階段

オーバーハングした河畔林、屋敷林

河岸に残る塩の道（水際に人が歩ける空間が残っている）

清冽な水が流れる溪流（かつてあった姿）

## 特徴を活かすデザイン配慮事項

「既存のものを利用し、足助らしさをつくる」ために既設の石積みに根継ぎ工で補強した。

根固め工のテラス部分に幅を持たせて人が通れるようにした。

根固めの高さをなるべく低くして手で水面に触れられる程度とした。

根固め工の法面を自然石積みとした。



昔あった「塩の道」を復元するために、テラス部分に幅を持たせる。

河川類型：上流区間、都市的河川、中小河川

河川景観の特徴：人間の営為が反映された景観、流域文化に彩られた景観

工種：根継ぎ工、階段工、水質浄化施設

デザインキーワード：歴史的な街並み、市民と一体となった川づくり、既存の石積み  
の活用、

水質は上流域の河川  
景観の重要な要素で  
あることから、これを  
良好に保つためにテ  
ラス部分に浄化水路  
を設けて水質の向上  
に繋げる



提供：愛知県豊田加茂建設事務所足助支所

低水護岸の素材は、河床材と似  
たものであるが、家屋の石積み  
とは違和感がある。  
また、テラス部が鉄平石で造ら  
れることによって、薄く違和感  
がある。デコボコのある荒仕上  
げとしてもよい。

既存の石積みと住居  
から直接川に降りら  
れる階段は足助川ら  
しさの特徴である。こ  
れを保全するために、  
新たな護岸を造るの  
ではなく根継ぎで補  
強している。



提供：愛知県豊田加茂建設事務所足助支所

## 写真



施工前

提供：愛知県豊田加茂建設事務所足助支所



施工後

提供：愛知県豊田加茂建設事務所足助支所



施工前

提供：愛知県豊田加茂建設事務所足助支所



施工後

提供：愛知県豊田加茂建設事務所足助支所

## 水質浄化の工夫

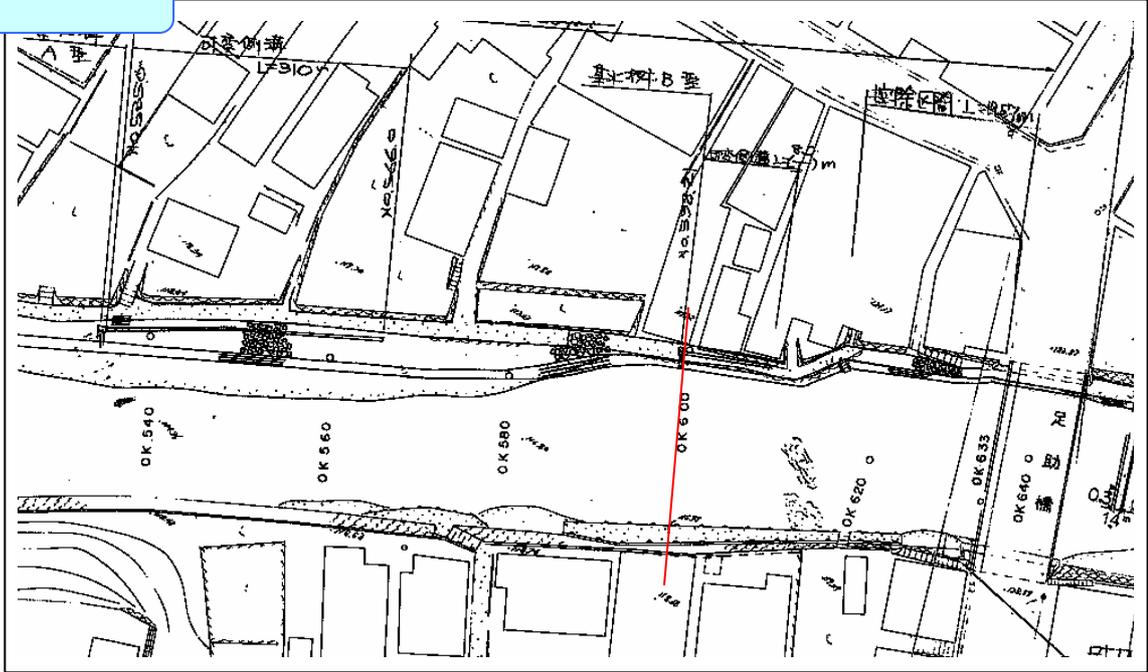
「足助の川を守る会」が行う河川清掃以外に、水質浄化対策として、護岸改修に伴って、家庭排水口の真下の根固め工に礫、木炭を置いた浄化水路を設けている。木炭の取り替えは住民が行っている。



提供：愛知県豊田加茂建設事務所足助支所

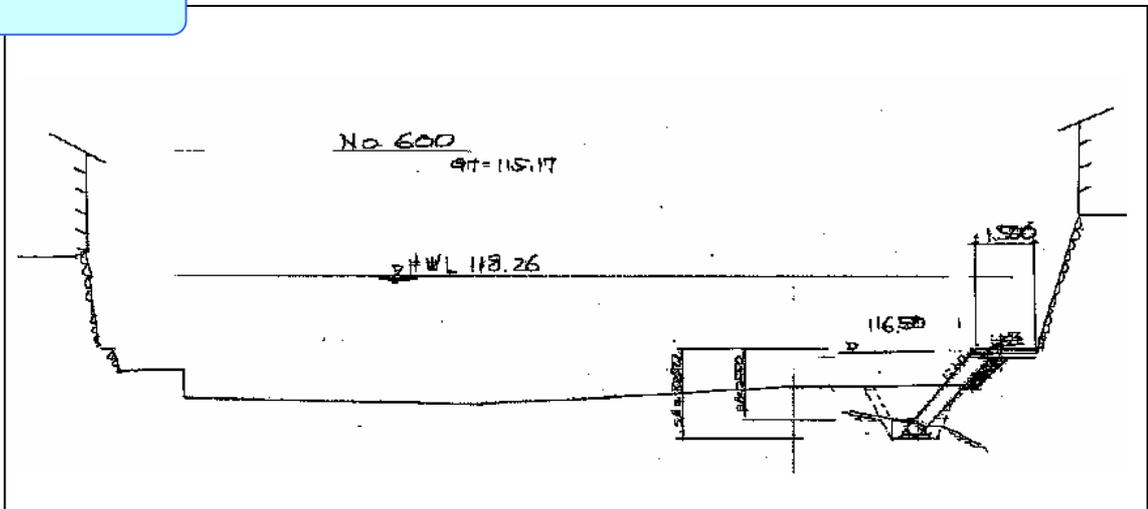
## 図面

### 平面図



提供：愛知県豊田加茂建設事務所足助支所

### 断面図



提供：愛知県豊田加茂建設事務所足助支所

# 歴史性と賑わいをもたらすデザイン

島根県・津和野川 つわのがわ

## 概要

歴史的な施設と河川をつなげた津和野川は、観光都市の景観整備の参考になる事例である。散在する観光資源の動線としての川の活用、祭りの舞台としての川の活用等を行うとともに、歴史的な街並みとの調和をはかるための石積み、素材等の工夫を行っている。

## 津和野川の河川景観を読み解く

近接した山並み、歴史的な街並み、水の流れが、上流域の都市的河川らしい景観となっている。津和野川の場合、歴史性を活かした観光都市となっており、歴史的な街並み・行事、憩いの場となる河川空間、観光客の賑わいが大きな特徴となっている。

やや開けた山間の歴史のある街中を流れる中小河川  
河川周辺に分布する観光資源となる史跡等  
地域の人々、観光客がもたらす賑わいのある水辺（新たに創出）

## 特徴を活かすデザイン配慮事項

地域の祭りイベントの場となるテラスを整備する。河川周辺の道路には、用地のある限り高木を植栽し、用地のない区間に協定や補助金制度の創設等により民地での植栽に協力を仰ぎ、緑の散策路をつくる。地域のコミュニティセンターや郷土館といった堤内地の施設と津和野川が一体となった整備をはかる。護岸は石積みとし、階段を設け水際に降りられるようにし、高水敷に遊歩道を整備する。専門家チームによる検討により、地域に相応しい石積み護岸等きめ細かな検討を行う。

親水性を確保するために階段護岸を設置する。場所は拠点施設、主要な視点場からの視野に入る場所とする。

歴史的な街並みとの調和をはかるために、地域にあった石積み護岸とする。

河川類型：上流区間、都市的河川、中小河川

河川景観の特徴：広がりや連続性を感じさせる景観、人間の営為が反映された景観、  
流域文化に彩られた景観、水と触れあいと賑わいのある景観

工種：テラス、石積護岸、散策路

デザインキーワード：まちづくり、河川周辺の施設との連続性、素材感の統一、専門

川を軸にした、観光ネットワークができるように、緑の遊歩道を整備している。また芝生で都市と川を結び伸びやかなデザインとしている。また屋内地の河川周辺施設と、津和野川が一体となった整備をはかる。

川に賑わいをもたらすために地域のイベント、祭りの場となるテラスを整備している。しかし、鉄平石が不釣り合いな観を与える。

## 写真



**施工前**  
まちづくりの中で津和野川はあまり注目されていなかった。

出典：ふるさとの川をつくり育てる

**施工後**  
河川周辺の施設との一体的整備によって創出された水辺の観光拠点。

提供：島根県津和野土木事務所



背後の公共施設と、川に挟まれた用地を買収し、両者を一体的に整備することで、開放的な水辺となった。

出典：ふるさとの川をつくり育てる



パラペットには地元の石州瓦を使用し、周辺の街並みとの調和をはかる。

出典：ふるさとの川をつくり育てる

### 石積護岸の工夫

津和野川では、景観の専門家チームにより、様々な工夫により地域に相応しい石積護岸が整備された。

- ・地域の田畑の石垣に使われていた、地元の山で採掘される石を用いる。
- ・石積みの目地を深目地にする。
- ・護岸勾配を急にして法肩に緑地を設ける。
- ・下部に石張りの根固工を設置して石積護岸の表面積を抑えて圧迫感を軽減する。
- ・連続する護岸の途中に、階段工や雁行状の入り組みを配置して単調感を緩和する。
- ・石積のパターンを微妙に変えた石積護岸の試作品をつくって検討する。



出典：ふるさとの川をつくり育てる



出典：ふるさとの川をつくり育てる

## 図面

津和野町を中心とする延長約 2.9km の区間で整備が進められているが、事例は図面に示す中心的な区間を紹介した。

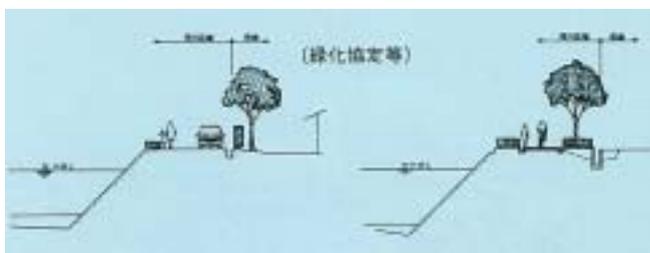
### 平面図



提供：島根県津和野土木事務所

### 河川周辺の植栽

緑の遊歩道の整備には、川沿の道路には用地が有る限り高木を植栽し、用地のない区間は、協定や補助金制度の創設等により、民地での高木植栽を仰ぐ。



用地がない場合

用地がある場合

出典：ふるさとの川をつくる

# 歴史性を醸し出すデザイン

なかつがわ  
岩手県・中津川

## 概要

中津川は、古いコンクリートのパラペット護岸を石積みで修景した事例である。いちからの護岸改修でなく、制約条件の多い中で工夫している。景観のポイントは、空積みとしたこと、石積みが高く見えないように石積みの途中に植生が生える段を設けたこと、水際には植生が生えるような根固めを設置したことがあげられる。しかし、手すりが少し固い印象を与え、景観上の配慮が必要である。

一方、このデザインをまねて施工された下流の特殊堤は異なる仕上がりになっている。石は張られたものであり、高さを抑えて見せる段差と植生がなく、水際には根固工が露出している。

最初に景観に配慮したものを延伸する場合には、当初のデザインのコンセプトを確認し、継承することが必要である。

## 中津川の河川景観を読み解く

遠景の山並み、都市の街並み、都市に配置される公園・沿道の樹木、水の流れが上流域の都市的河川らしい景観となっている。中津川の場合、岩手公園の緑、都市部の中で貴重な開放的な空間が特徴となっている。

山間から開けた歴史ある近代的都市を流れる中小河川  
江戸期の城下町の街並み（かつてあった姿）  
岩手公園の石積み護岸と樹林  
河川敷の草地の間を緩やかに流れる水面

## 特徴を活かすデザイン配慮事項

石積みの素材、表面意匠によって盛岡らしさを演出した。

対岸の岩手公園の石垣、樹林との調和をはかった。  
急勾配の特殊堤にすることによって、高水敷を広く確保するとともに、石積みの美しさを前面に出した。



河川類型：上流区間、都市的河川、中小河川

河川景観の特徴：人間の営為が反映された景観、流域文化に彩られた景観

工種：石積み護岸、特殊堤

デザインキーワード：高さ感の軽減、都市の緑地空間



石積みが高く見えないように、途中に植生が生える段を設ける。

歴史的な重厚なイメージの再現、現在ある対岸の岩手公園の石積みとの調和をはかるために石積みの素材、表面の意匠、天端の処理等の細かなデザインに地域らしさを演出する

\*

## 写真



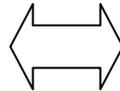
施工前

提供：岩手河川国道事務所



施工後

\*



先行してデザインされた堤（左）とそれを真似てデザインした下流の特殊堤（右）  
表面を真似たデザインであるが、石が張られたものであること、水際の根固めが露出していること等により、違和感のあるものになっている

提供：島谷幸宏

提供：島谷幸宏



整備箇所対岸  
岩手公園の石垣と樹林が見える。対岸の景観との調和も考慮する必要がある。

\*

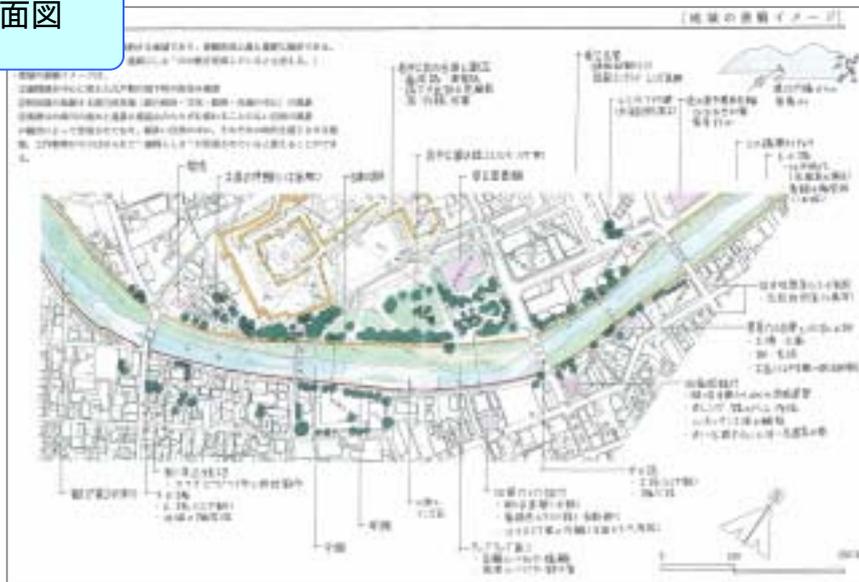


パラペットも重厚さを感じるデザインとなっている。

\*

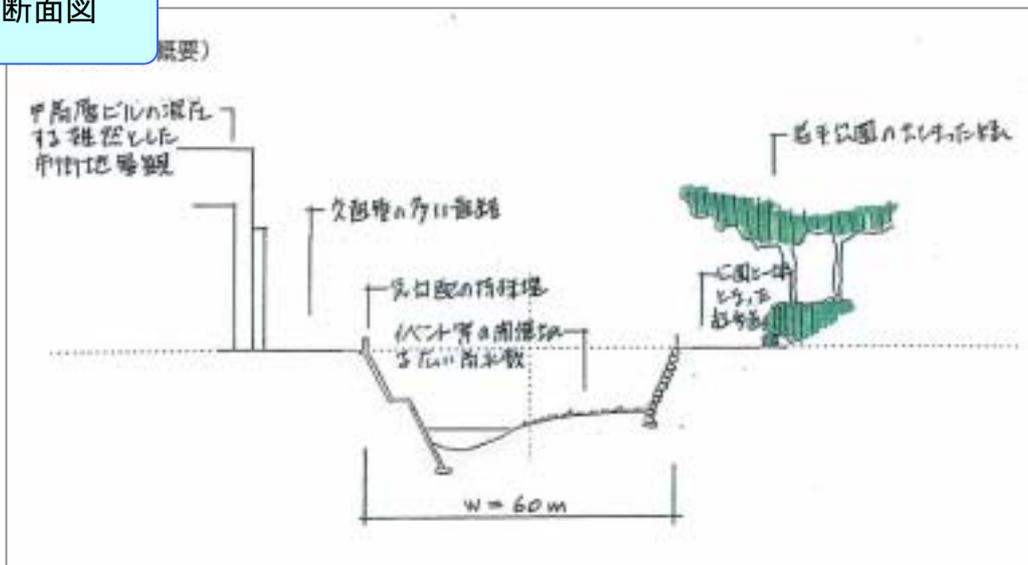
## 図面

### 平面図



提供：岩手河川国道事務所

### 断面図



提供：岩手河川国道事務所

# 改変を最小限にするデザイン

ひとくろおおるじがわ  
兵庫県・一庫大路次川

## 概要

中小河川では、現在広い河川空間を有している場所を保つことがポイントとなる。

一庫大路次川は、定規断面での改修が計画されていたが、もとの広い河川空間を有効に活用して見直した事例である。もとの地盤高を見ながら、竹林や砂州を残した点が評価できる。

## 一庫大路次川の河川景観を読み解く

遠景の山並み、瀬と淵をともなって蛇行する河川、河川周辺に残された河畔林、人の営みが中流域の自然的河川らしい景観となっている。一庫大路次川は、中小河川であるが、周辺の景観要素を取り込んだ開放的な河川景観を形成している点が特徴と言える。

開けた山麓の郊外地を流れる中小河川

川の蛇行が形成する自然な瀬と淵と砂州

河川周辺に残された河畔林と背景の山地の樹林が形成する緑豊かな空間

## 特徴を活かすデザイン配慮事項

良好な河川景観要素である湾曲部の淵、みお筋、砂州はそのまま保全し、築堤、護岸強化により治水面の対策をする。

堤防の整備にあたっては、特徴的な景観である高木を保全するため、その位置を確認し、なるべく避けるようにして、堤防線形を設定する。



河川類型：中流区間、自然的河川、中小河川

河川景観の特徴：広がりや連続性を感じさせる景観

工種：カゴマット、堤防

デザインキーワード：河畔林・河原の保全、河道計画の修正、市民参加、専門家のアドバイス

河畔林は自然の景観、生態系の重要な要素である。また、このような高木の早期の再生は困難であることから、できるだけ保全する。そのために、築堤の法線は、高木を避けるように設定した。

蛇行する流れと、瀬と淵は中流区間の河川景観の特徴である。掘削によって、平坦な流れになるとこの特徴が失われることから、築堤、護岸により、現状の淵、みお筋を保全する



## 写真



**施工前**  
当初の計画では、この淵が埋められ、公園利用される予定であった。

提供：兵庫県宝塚土木事務所



**施工後**  
河道計画を見直したことで、淵、砂州、河畔林がセットになった景観を保全できた。

提供：三宅正弘



保全された河畔林と淵  
淵にはフナ、コイ、ナマズ等があり、釣り人も多く訪れる。\*



カゴマットに覆土した堤防。  
高木を避けた法線とすることで、改変断面を最小限にしている。

提供：(財)リバーフロント整備センター



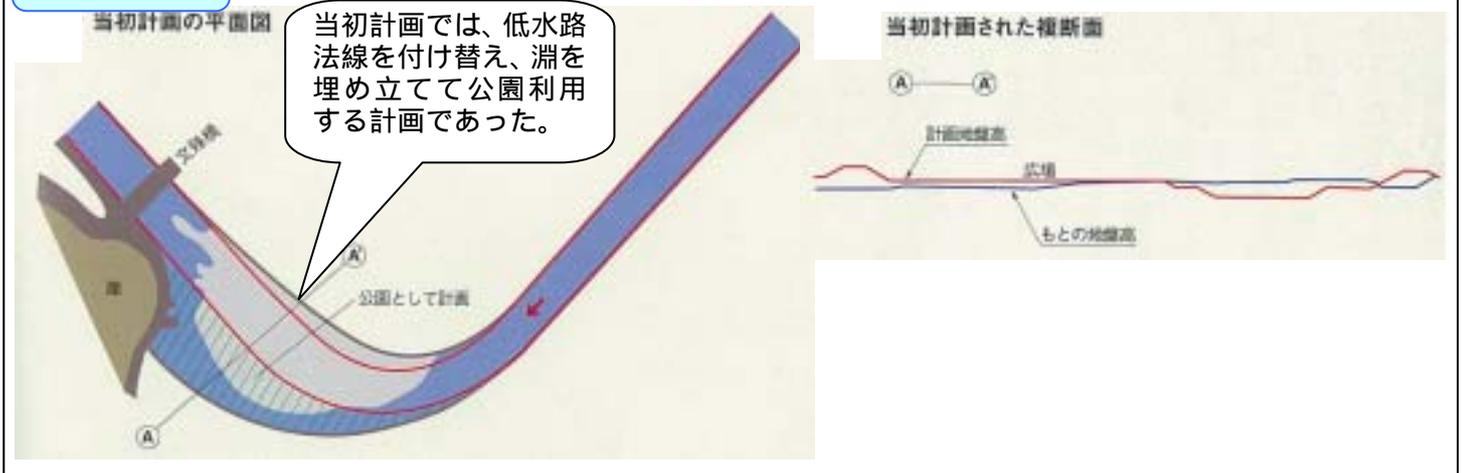
石張りの護岸  
部分的な石張りの護岸が周辺を馴染むかは今後見守る必要がある。

提供：(財)リバーフロント整備センター

## 図面

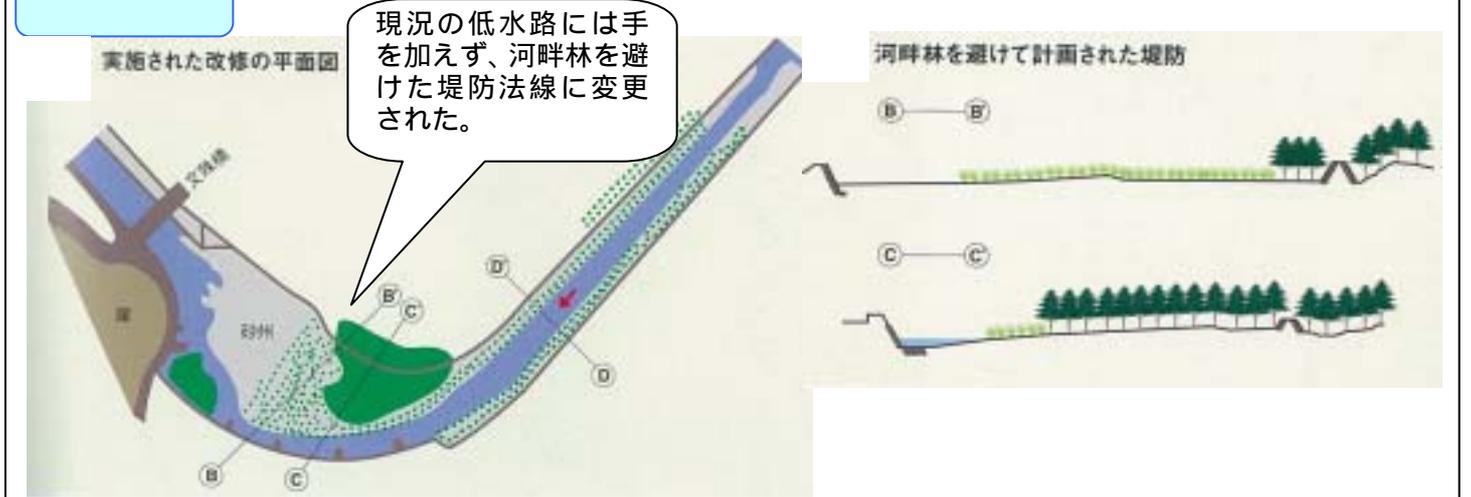
当初は、淵を埋め立て高水敷を公園整備する計画であったが、見直し後は、現況の低水路には手を加えないこととし、河畔林を避けた堤防法線に修正された。

### 当初計画



出典：市民と行政をつなぐ専門家の役割

### 見直し後



出典：市民と行政をつなぐ専門家の役割

## 現在の河床形状をまねるデザイン

くろめがわ  
埼玉県・黒目川

### 概要

黒目川は、堤防を無くした掘込み河道とすることで、地域住民に親しまれる沿川の桜並木を保全するとともに、掘削の際、現在の河床形状をまねることで、砂州や池等の景観要素を復元し、自然な河川景観を保全した事例である。

### 黒目川の景観を読み解く

緩やかな川の流れ、堤防から水際まで連続する植生、人の暮らしが中流域の都市的河川らしい景観となっている。黒目川では、堤防上の桜並木が地域の人に親しまれ、季節を感じさせる良好な景観要素になっている。

平野の住宅地をゆったりと流れる中小河川

人々に親しまれる桜並木と散策路

変化のある水際のライン

河川敷に自然に形成された草地

水中を泳ぐ魚（橋の上から見える）

### 特徴を活かすデザイン配慮事項

現在の河床形状をまねて掘削することで、砂州や池等の景観要素を復元する。

河道の流路は、もともとの法線形を尊重する。

護岸は水衝部のみとする。カゴマットに覆土して、根固工に片法枠工、捨て石工を行い、現況と同じような草の生えた河岸の景観を復元する。

桜並木は地域の人  
の親しまれる重要な  
景観要素であること  
から、堤防を無くした掘  
込み河道とすること  
で、沿川の桜並木を保  
全する。



河川類型：中流区間、都市的河川、中小河川

河川景観の特徴：表情豊かに流れる水が存在する景観、時間により移ろう景観  
水と触れあいと賑わいのある景観

工種：カゴマット、護岸

デザインキーワード：、河床掘削（砂州・流路等の復元）、桜並木の保全、河岸の緑化、委員会方式

砂州や瀬は自然な河川景観の重要な要素である。人為的、固定的に砂州や瀬を再生しようとしても、河川の変動の中で馴染まない景観になってしまう場合が多い。このような場合、現状の砂州、瀬の配置、流路の平面形状をそのまま再現するように掘削すると変動の中でも維持されやすい。

カゴマットを配置しただけでは、植物の定着が遅れる場合がある。カゴマットに覆土し、植物を定着させることで周辺の景観と調和させる。

水際線は水域と陸域の境界部であり、生態的にも景観的にも重要な要素である。一律に全て護岸とするのではなく、水衝部のような治水上やむをえない場所にだけ護岸をはるようにする。



\*

## 写真



### 施工前

当初の改修計画では川底を 1m 程度掘削する計画であったため、両側の桜並木が無くなること等の課題があった。

#### 桜並木の保全

掘込み河道とすることで築堤を避け、管理用通路の堤内地との境界までは治水上必要となる所定の高さまで嵩上げを行う等の工夫を行ない、桜並木を保全した。

提供：島谷幸宏



### 施工後

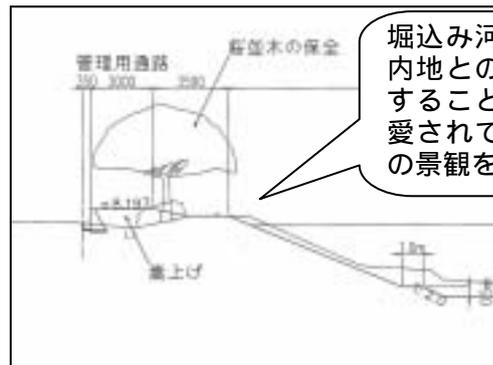
桜並木が保全され、水際の植物が回復し自然な水際線が形成されている。人が川にアプローチしやすい。

提供：埼玉県新河岸川総合治水事務所



管理用通路

旧堤防天端



掘込み河道とし、堤内地との境界に工夫することで、地域に愛されている桜並木の景観を保全。

提供：埼玉県新河岸川総合治水事務所

### 河床の垂直移動

河床掘削は、もともとの流路、砂州、砂州の上の池等、現況の河床形態をまねて掘削した。

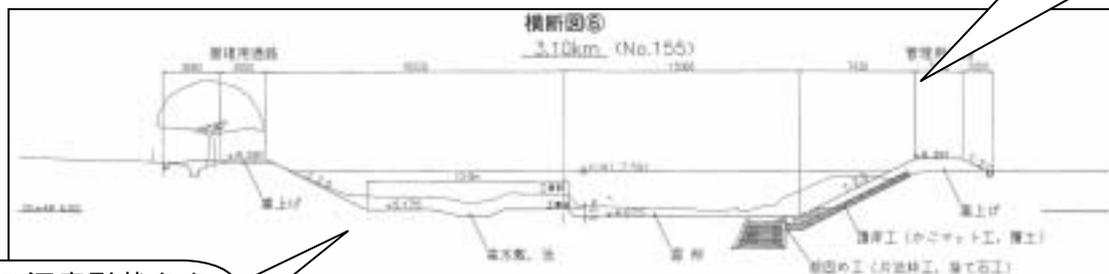
施工後、もとの河床形態が復元している。

### 護岸は水衝部のみに設置

護岸は水衝部のみに設置し、カゴマットに覆土することで、もとの河岸とおなじような草の生えた景観を復元した。



護岸は水衝部のみに設置。カゴマットに覆土し、もとの草の生えた景観を復元。



現況の河床形状をまねて掘削し、流路、砂州、池等の景観要素を復元。

提供：埼玉県新河岸川総合治水事務所

## 比べてみよう-標準横断面による河川改修-

従来型の標準横断面による改修では、砂州が取り除かれ、水際の植物は無くなり、河床が一律で瀬・淵のない、単調な川になってしまうことが多い。

黒目川の当初計画は、標準横断面による計画だったが、河床形状を現状をまねて掘削することで、自然的な景観要素を復元することができた。



従来型の整備(黒目川の他の区間の様子)  
提供：埼玉県新河岸川総合治水事務所

## 図面

### 平面図



\* 検討区間 1.7kmのうち、一部を紹介

提供：埼玉県新河岸川総合治水事務所

# 水辺から堤防まで一体的なデザイン

あぶくまがわ  
福島県・阿武隈川

## 概要

阿武隈川は、水辺から堤防までを一体的にデザインし、一部の樹木を残すことによって、自然を活用した親水空間を創出した事例である。

しかし、当該箇所における本来の河川景観ではなく、維持管理が困難であることから、拠点的にとどめておくことが望ましい。

## 阿武隈川の河川景観を読み解く

大きくゆったりと流れる水の流れ、開放的な空間、沿川の街並みが中流域の都市的河川らしい景観となっている。阿武隈川は、都市と水面の間にある植生が荒れた状態となっており、街と水辺の連続性をなくしていた。

平野の都市部をゆったりと流れる大河川	河川敷の植生
大きく蛇行して流れる水面	ビル群

## 特徴を活かすデザイン配慮事項

河川敷に緩勾配をつけ、さらに自然なアンジュレーションを与えることで、水辺から堤防までが視覚的に一体化され、親しみやすい空間とする。

水際部は勾配を 1 : 10 として利用者の安全の確保をはかる

児童が水辺や水中の生き物の観察ができるように、親水ワンド（水深 60cm 程度）を設ける。

高水敷の園路は、幅員 2m 程度の土構造とし、自然に近い状態での利用ができるようにする。

排水樋管の階段は、景観と足の感触がよい鉄道の枕木をつかった木製階段とする。

高水敷の植生は、高木の一部を保存し一部は移植する。イベント等で利用する部分はクローバを植え、他の場所にはカワラナデシコ、ミヤコグサ、レンゲ、クローバ等を植える。

河川類型：中流区間、都市的河川、大河川

河川景観の特徴：広がりや連続性を感じさせる景観、水と触れあいと賑わいのある景観

工種：遊歩道、ワンド、階段、堤防

デザインキーワード：水辺の楽校、緩やかな水際線、水辺から堤防までの一体化、アースデザイン、委員会、市民参加、洪水による破壊、維持管理

自然な景観に馴染むように、園路は土構造とする。

単調な景観とならないように、緩やかな起伏によって水際から堤防までを一体の水辺空間とする

植生の繁茂は水辺のアクセスを低下し、景観的にも雑多な印象を与える。しかし、全て伐採すると自然性が低下することから一部を残し一部は移植する。



子どもの利用はいきいきとした景観を創出するため、水辺や水中の生き物を観察できる親水ワンドを整備する。

利用者の安全をはがって利用を高めるため、水際は、勾配を 1:10 とする。

\*

出水後



\*

平成 10 年、阿武隈川は大きな出水にみまわれ、「渡利水辺の楽校」では河岸が削られ水際の樹木の根の周りは洗掘を受けた。

その後、普段の河川維持工事の中で、出水後の対応をはかってきた。これまで樹木周辺での地盤高調整、経年的な観測に基づく地盤高調整等のアンジュレーション処理、橋脚周りの洗掘箇所の埋め戻し等を実施している。

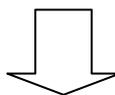
## 写真



### 施工前

古くから「隈畔（わいはん）」と呼ばれ親しまれていたが、ヨシ等が生い茂り、水際の河岸勾配も急で人々が近づきにくい場所であった

提供：福島河川国道事務所



### 施工後

堤防から水際にかけて緩傾斜がつつき、植生もすっきりとした利用しやすい空間になった。



提供：福島河川国道事務所



利用しやすい高水敷は、沢山の人々が訪れてくる。

提供：福島河川国道事務所



利用者の安全をはかった、なだらかな水際線。

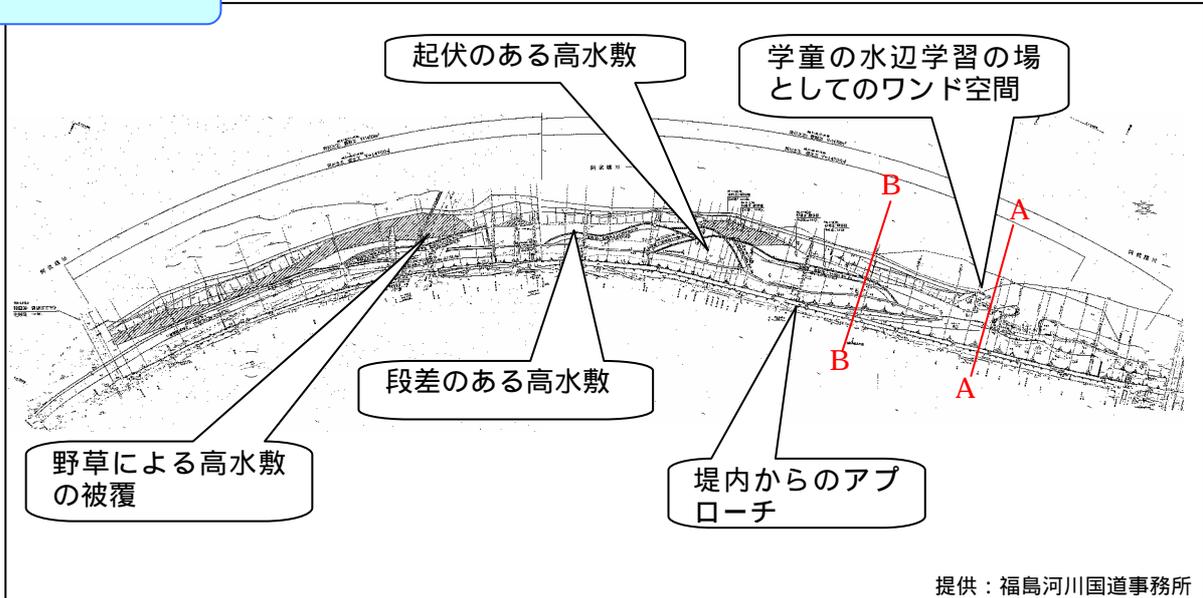
提供：福島河川国道事務所



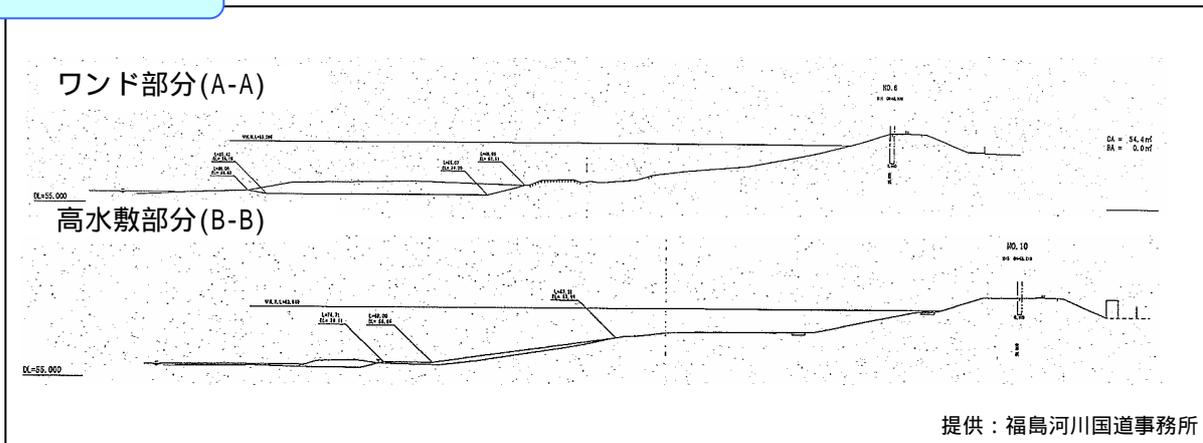
排水樋管の横に取り付けた階段は、景観と、足の感触が良い鉄道の枕木を使用する。

## 図面

### 平面図



### 横断面図



# 水際から堤防にかけての連続的なデザイン

しまんとがわ  
高知県・四万十川

## 概要

日本を代表する清流として有名な四万十川の中においてランドマークとなっている赤鉄橋周辺に、覆土・植生護岸を実施し、河岸法面の緑化により、護岸のみならず水際から高水敷、堤防にかけての全体的な景観の連続性を創出した事例である。

ただし、平成11年9月の洪水により下流部では覆土の一部が流出する等の被害を生じた。今後は、水衝部における根固工としての根入れや工法について再度検証を行い、最も重要な機能である護岸としての機能保持について検証する必要があると考えられる。

## 四万十川の河川景観を読み解く

ゆったりとした川の流れ、遠景の山並み、広い高水敷、沿川の人の生活が中流域の自然的河川らしい景観となっている。四万十川の場合、山並みと水面の異なる空間を川岸が調和をはかるように結んでいる点が特徴である。

周囲の山々を借景にゆったりとした清らかな大河川

自然豊かな川岸

広く白い砂州

流域に暮らす人々の生活（川漁師、護岸の大根干し等）

## 特徴を活かすデザイン配慮事項

既設根固工の補強と景観向上のため木工沈床を設置した。水衝部には、既設根固工の前面に洗掘防止として片法枠沈床を設置した。

根固ブロック上面は覆土し、在来植生であるツルヨシ、ヤナギ等を植栽し自然植生の復元をはかった。

覆土止めとして間伐材を使用した杭柵工等を施工し、掘削により発生した河床材料を用いて法面覆土を行い、自然植生の復元でエコトーンの修得をはかった。



河川類型：中流区間、自然的河川、大河川

河川景観の特徴：固有の生態系を有する景観、広がりや連続性を感じさせる景観

工種：木工沈床、片法枠沈床、覆土、杭柵工

デザインキーワード：自然地形の再現、エコトーン、砂州の動態



提供：中村河川国道事務所

周囲の山並みと水面との連続的な景観を創出するため、覆土して自然植生の復元をはかるものとするが、上流の著しい水衝部には、既設根固工の前面に洗掘防止として片法枠沈床を設置する。下流部は柔軟性に富み河床の洗掘に順応して屈撓し、河床に対し常に密着して床固めの目的を果たす粗朶沈床を設置する。

## 写真



工事前（平成 7 年）  
提供：中村河川国道事務所



完成直後（平成 7 年）  
提供：中村河川国道事務所



工事後（平成 11 年）  
提供：中村河川国道事務所



工事後（平成 16 年）  
植生が繁茂して水辺の緑が形成されている

提供：中村河川国道事務所



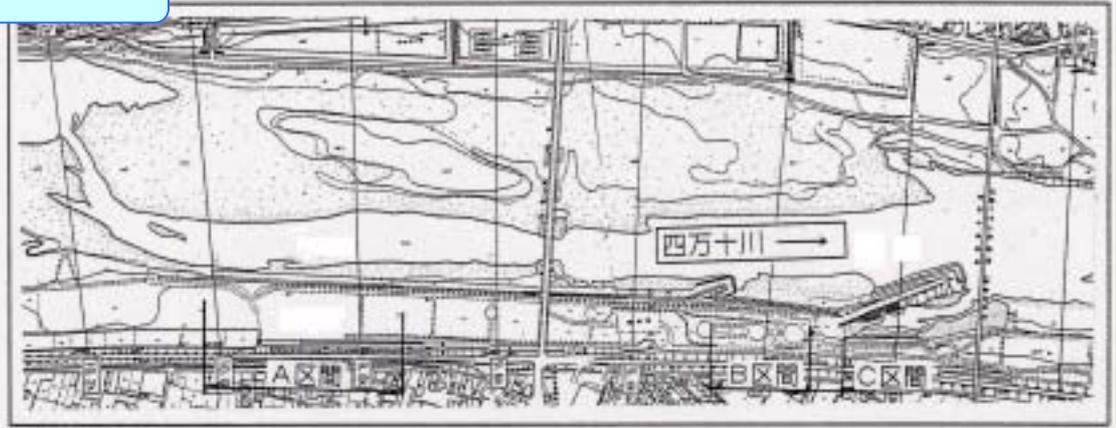
工事中（平成 7 年）  
提供：中村河川国道事務所

### モニタリング調査結果

施工から3年が経過した上流側では、水生植物の割合が少ないものの植被率が70%程度に達した。施工後約1年が経過した下流側では、植被率が低い。ネコヤナギ・アキグミ等の木本類やオギ・ツルヨシ・ヨモギ等の草本類が生育していた。植栽した自生種が生育しているため、構成種の自然性は上流側よりもむしろ高いと考えられる。

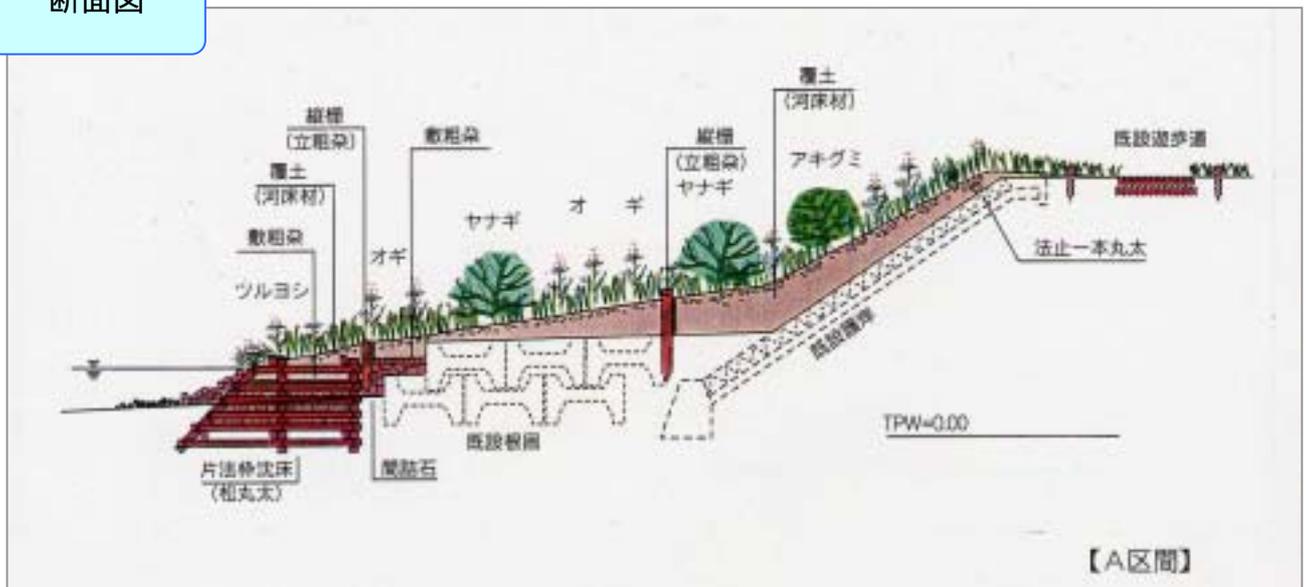
## 図面

### 平面図



提供：中村河川国道事務所

### 断面図



提供：中村河川国道事務所

# 地域にあった生態系を復元するデザイン

東京都・荒川 あらかわ

## 概要

荒川は、河口部にヨシ原、干潟を再生した事例である。河川が自然の美しさを取り戻すことによって、無機的な空間の中に潤いをもたらすことができる。護岸によって水域と分断された高水敷にはセイタカアワダチソウ等の外来種が侵入し、景観が一層、本来の姿から遠のくことから、対象河川の本来の姿を考える必要がある。

## 荒川の河川景観を読み解く

広い水面、水面を縁取るように存在する水際、小さく見える都市の表情が下流域の都市的河川らしい景観となっている。

荒川においては、高水敷の空間と、水面が急勾配の低水護岸で分断され、人工的な印象を助長していたが、河口域に、かつてあったと考えられるヨシ原等の多様な生物をはぐくむ空間が大切な点と考える。

大都市の外郭を悠々と流れる大河川  
部分的に残されたヨシ原・干潟  
運動場等に利用される高水敷  
河川に沿ってはしる都市高速道路

## 特徴を活かすデザイン配慮事項

新たに自然拠点地をつくる。特に、利用地が連続している地区では、積極的に新たなまとまった自然地を創出し、全川を通して自然拠点地が連続して分布する

干潟、ヨシ原等による自然な水際線を形成する。  
堤防の法面勾配を3~4割と緩くし、生物のコリドーとして位置づける。

河川敷に湿地や水路（クリーク）を整備する。

多様な生物の利用が可能  
なように、緩傾斜堤防に  
して生物のコリドーとし  
て位置づける



河川類型：下流区間、都市的河川、大河川

河川景観の特徴：固有の生態系を有する景観、人間の営為が反映された景観

工種：水制、水路、堤防、ワンド

デザインキーワード：ヨシ原、干潟、自然再生、ピオトープ



河口域に固有な生物の生息が可能になるように、地盤の切り下げによる湿地化、既存の湿地の保全、素掘りの水路、低水護岸の多自然化、水制による州、ワンドを形成させる。

都市部における河川のレクリエーション的機能は、いきいきとした河川景観を創出することから、カニ、魚とり等子供の水遊びの場となる緩傾斜の岸を整備する

\*

## 写真



左岸  
干潟、ヨシ原に配慮した護岸



右岸  
干潟、ヨシ原に配慮しない護岸



施工後もヨシ原、干潟が維持されている



手前のヨシ原の再生を行っていない区間では、外来種のセイタカアワダチソウが繁茂している。

## 河口部の植生

河口部においては、塩分に対して耐性のあるヨシが大きな群落を形成し、河口部の特徴的な景観を形成している。浅い水辺のヨシ原は魚類の産卵の場所となり、稚魚やヤゴが成長する場所としても重要である。さらに、オオヨシキリの営巣地としても利用され、動物の貴重な生息環境となる。

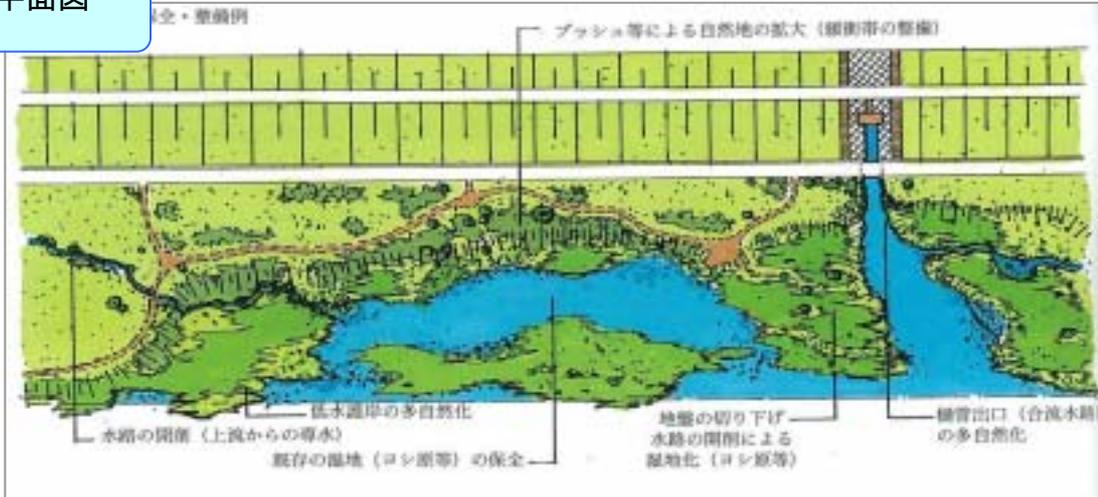
しかし、河口部が全てヨシ原だけでいいかと言うとそうではなく、右の写真のように河口部においても河畔林が形成され、特徴的な景観を形成している場合がある。このような特徴的な景観要素を活かしていく必要がある。



提供：島谷幸宏

## 図面

### 平面図



出典：荒川将来像計画全体構想書

### 断面図

#### 【干潟タイプ】



#### 【湿地タイプ】



出典：荒川将来像計画全体構想書

# 変化を許容するデザイン

宮崎県・北川 きたがわ

## 概要

北川は、霞堤、高水敷掘削による攪乱の発生、ワンド・ヨシ原の再生等、河道を低水護岸等で固定することなく、変化を許容することによって自然的な景観を保全した事例である。

## 北川の河川景観を読み解く

北川は、山間地の谷底平野を流下しており、海岸域にまで迫った山地が、景観に奥行き感を与えている。水域と陸域の境界にある河畔林、山地斜面、ヨシ原は、多様な生態系を形づくり、それが良好な景観を生み出すことから、それらの要素が特徴となっている。

山地に囲まれた水田地帯を流れる悠々と流れる大  
河川

広い水面に迫る斜面林

ヨシ原と河畔林

## 特徴を活かすデザイン配慮事項

霞堤によって、河道拡幅による河川空間の改変を抑え、周辺の田園景観、水辺の景観への影響を最小限に止める。

掘削は原則として、高水敷にとどめ、掘削するレベルは、適度な攪乱が生じるものとし、河川特有の景観の維持をはかる。

掘削によって失われるワンド、ヨシ原は、別の場所に復元する。

流下能力確保のため河畔林の背後地の高水敷を掘削する等により河畔林を保全する。

川島地区



歴史的、文化的価値のある  
景観要素となる河畔林「ひ  
ゆうごひぐり」を保全する

河川類型：下流区間、自然的河川、大河川

河川景観の特徴：自然の営力が織り成す景観、固有の生態系を有する景観、  
広がりや連続性を感じさせる景観、人間の営為が反映された景観、  
流域文化に彩られた景観

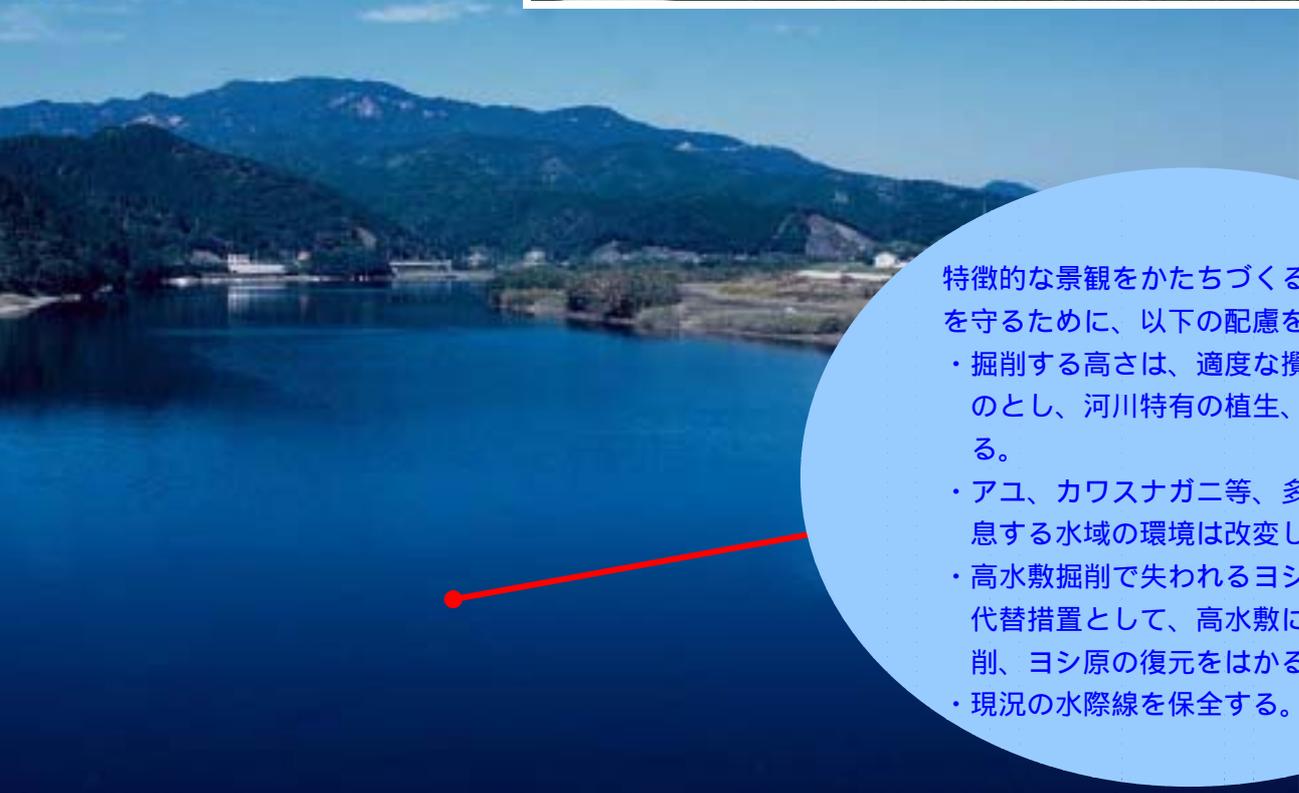
工種：霞堤、河道掘削、築堤

デザインキーワード：ワンド・ヨシ原の復元、河畔林の保全、河道掘削、河川環境情報図



引堤の回避、河道掘削の低減をはかることによって、田園景観、生態系への影響を最小限に止めるために霞堤とする。

提供：国土交通省



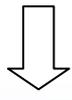
特徴的な景観をかたちづくる地域の生態系を守るために、以下の配慮を行う。

- ・掘削する高さは、適度な攪乱が生じるものとし、河川特有の植生、景観を維持する。
- ・アユ、カワスナガニ等、多様な生物が生息する水域の環境は改変しない。
- ・高水敷掘削で失われるヨシ原やワンドの代替措置として、高水敷に、ワンドの掘削、ヨシ原の復元をはかる。
- ・現況の水際線を保全する。

提供：畑中正司



施工前



施工後  
高水敷の形態が若干変わるものの、施工前の景観要素を維持している。

出典：北川直轄河川激甚災害対策特別緊急事業

## 激特事業の実施中は、工事が進められていき

各地区毎のトピック情報

**1. 西群林の増植 (西海地区)**

河川沿いの緑地を確保し、景観の向上を図るとともに、防災機能も高めるための取り組みです。

**2. 雪割の撤廃・穴化を活かした崖岸整備 (東海地区)**

雪割の撤廃と穴化を活かして、崖岸の崩壊防止を図るとともに、景観の向上を図っています。

**3. 宇原野小集集団圏と景観の向上 (東海地区)**

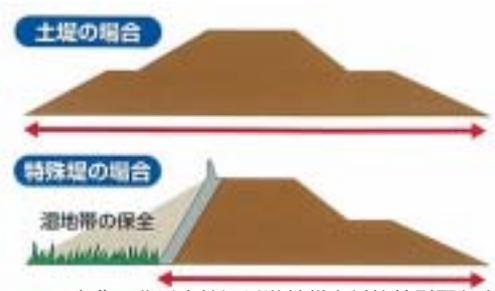
宇原野小集集団圏の景観向上を図るとともに、防災機能も高めるための取り組みです。

### 法線変更、特殊堤による湿地帯の保全

北川と友内川との合流点に見られる湿地帯は景観的にも生態的にも良好なものである。当初の計画では水門上流側に湿地帯が位置し、湿地が減少することが懸念されたが、法線を変更し、湿地の上流に水門を位置することにより湿地を保全した。さらに、堤体を特殊堤にすることにより、堤体の占める面積を小さくし、湿地帯への影響を最小限にとどめた。



出典：北川直轄河川激甚災害対策特別緊急事業



出典：北川直轄河川激甚災害対策特別緊急事業



# 快適さと美しさが調和した河岸のデザイン

おおたがわ  
広島県・太田川

## 概要

太田川は、広島市の歴史性、都市部における利用等を考慮し、快適さと美しさが調和した立体的な護岸、堤防を整備した事例である。人工的な印象を与える石張りにも草が生えるような工夫もしている。都市側の街並みとの一体的な整備が望まれる。

## 太田川の河川景観を読み解く

静かな水面、近代的な街並み、人の利用が下流域の都市的河川らしい景観となっている。

太田川は、都市のイメージの軸になるものであり、太田川を緑豊かで、水辺に親しむ空間とすることにより、都市全体のイメージ、機能の向上に繋げることができる。

都市の中心部を静かに流れる河川

河川周辺で営まれる人々の生活

## 特徴を活かすデザイン配慮事項

住民に対し、広島市と太田川に対するイメージ等の調査を行い、太田川全体に関するゾーニングと構想計画を策定する。

水辺の景観は、近づきやすく、また、近づきやすく見えることが大切であり、堤防小段、水制工、階段等を設ける（感潮域であり、水位変化に対応できるデザインとする）

河川幅 100mは対岸の人が活動していることが分かる距離であり、対岸との一体感を持たせるよう、護岸に変化やアクセントとなる石段を設け、鍵形の凹凸の石積みとし、対岸に目を向ける工夫をする

歴史性、景観的価値の素材として現護岸の花崗岩を用いる。既存の水制工も歴史的存在として保全再生をはかる



歴史性、景観的価値の素材として、既設の護岸に用いられていた花崗岩を使用

河川類型：下流区間、都市的河川、大河川

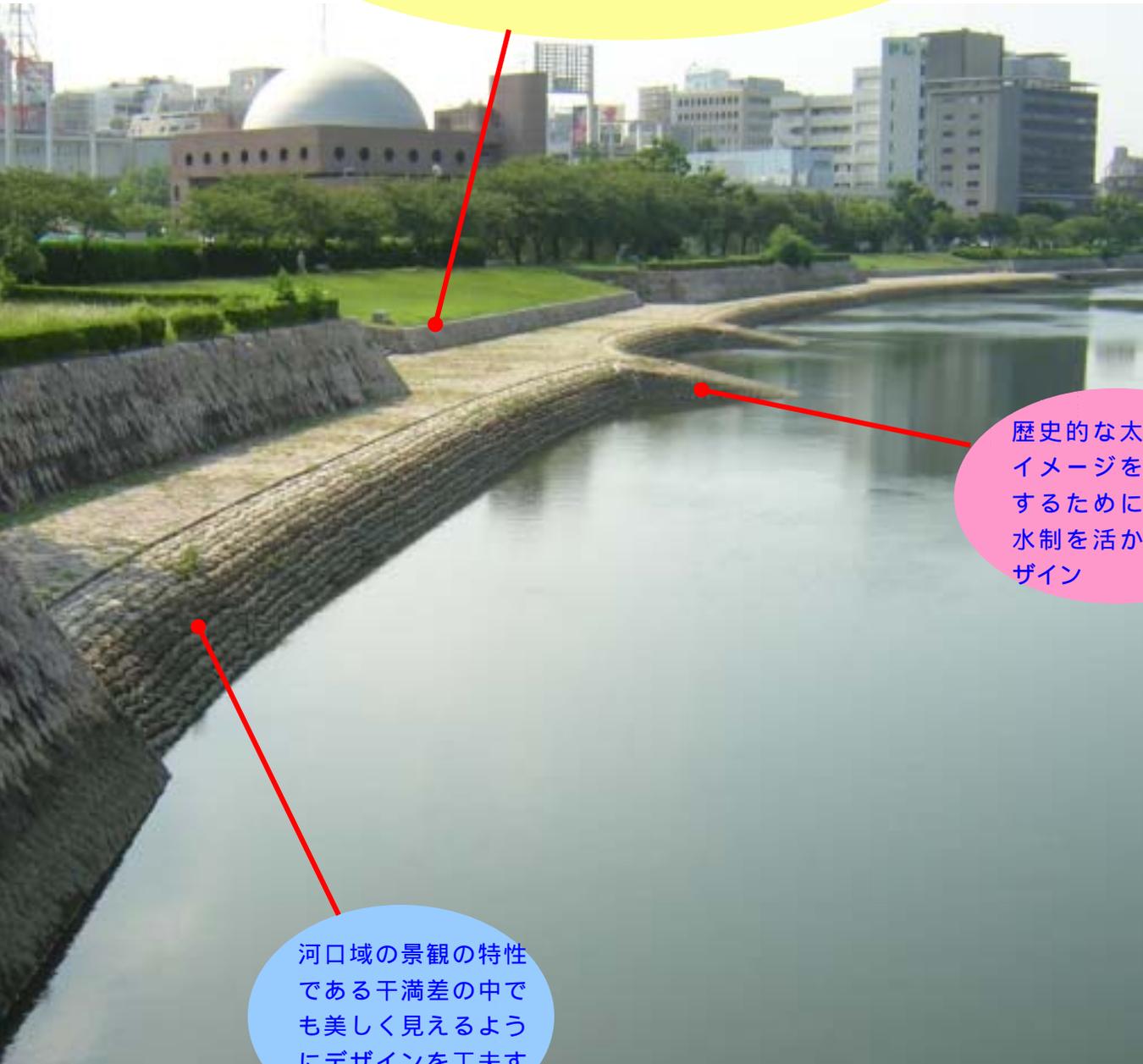
河川景観の特徴：広がりや連続性を感じさせる景観、人間の営為が反映された景観、  
水と触れあいと賑わいのある景観

工種：護岸、階段、水制、堤防

デザインキーワード：歴史性、既存構造物の活用、立体的デザイン

親水性と機能的な美しさを確保するために以下の点に配慮する。

- ・ 階段、水制、堤防小段を設ける
- ・ 護岸に変化や、アクセントとなる石段を設ける
- ・ 転落防止策は、低木の植栽とする



歴史的な太田川のイメージを大切に  
するために既存の水制を活かした  
デザイン

河口域の景観の特性  
である干満差の中  
でも美しく見える  
ようにデザインを工夫  
する

## 写真



施工前  
切り立った護岸の際まで住居があり、水  
辺と都市が分断されている。  
提供：大段徳市



施工後  
水辺と都市が一体となっている。\*



高水敷に保全された高木  
広い高水敷の中の高木は、水平方向に広がり  
にある下流域の景観の中で大きなアクセ  
ントとなり、印象を大きく変える。\*



護岸材料として花崗岩切石、玉石の使い方  
と大きさを指定する。\*



護岸に階段を設け、変化を与える。\*

### 立体的な護岸のデザイン

標準断面によって均質な断面を持つ  
護岸は単調な印象となり、無味乾燥な  
ものになってしまう。基町護岸は、平  
面的にみても、断面的にみても、一様  
なものとはしないことによって、景観  
に多様な表情を与えている。



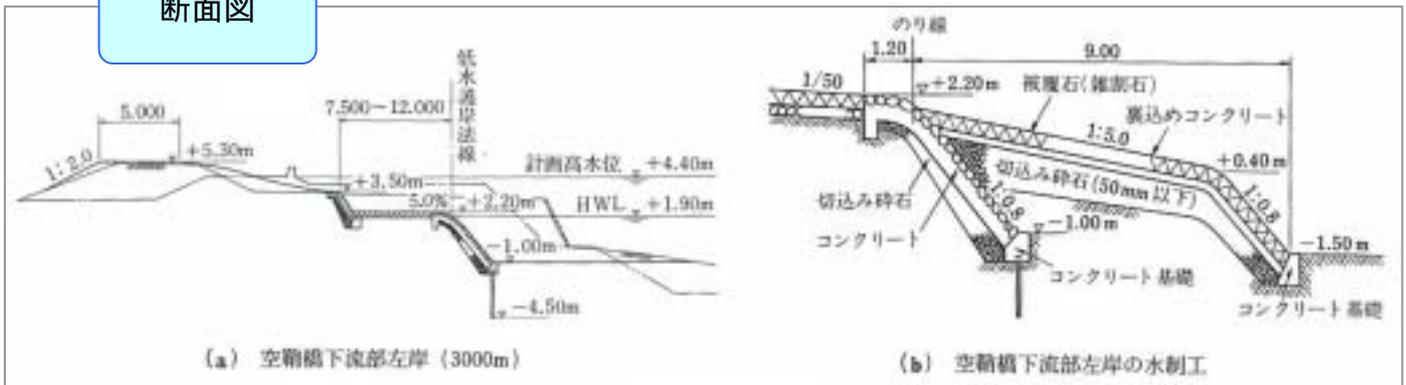
図面

平面図



出典：水辺の景観設計

断面図



出典：水辺の景観設計

# 都市に賑わいをもたらすデザイン

徳島県・新町川 しんまちがわ

## 概要

新町川は、ボードウォーク等の整備により、河川に人を集め、そのことによって河川に背を向けていた周辺の街並みが河川に顔を向けるようになり、一層賑わいのある景観となった事例である。公園的な整備が行きすぎた感がある箇所がある。自然的な美しさと人工的な美しさのバランスをはかることが大切である。

## 新町川の河川景観を読み解く

水辺に密着した都市部の活動・街並み、水面の多様な利用、沿道の緑が下流域の都市河川らしい景観となっている。

新町川は商店街が隣接しているが、店が川に背を向けるように建っており、商店街と河川は分断されている状況にあった。都市の河川では、人の賑わいが良好な河川景観を創出すると考えられることから、商店街と一体となった賑わいのある河川空間の創出が大切な点と言える。

下流区間の都市の中心部を流れる静かな水面  
ビル群と河川周辺の公園  
水面を走る船  
多くの橋梁

## 特徴を活かすデザイン配慮事項

ボードウォークによって様々な用途に使える場を提供する。  
広場、船着き場、階段護岸、休憩場、散策路によって人々を水辺に誘う。  
人々を水辺に誘う、橋詰め広場を整備する  
郷土材である青石を使った護岸を採用し、ツタにより緑化をはかる  
松並木を保全、補植する  
まちの事業と連携する(右の写真の新町川水際公園では、姿勢 100 周年事業として、公園整備は市、河道整備は河川管理者が実施した)



河川類型：下流区間、都市的河川、中小河川

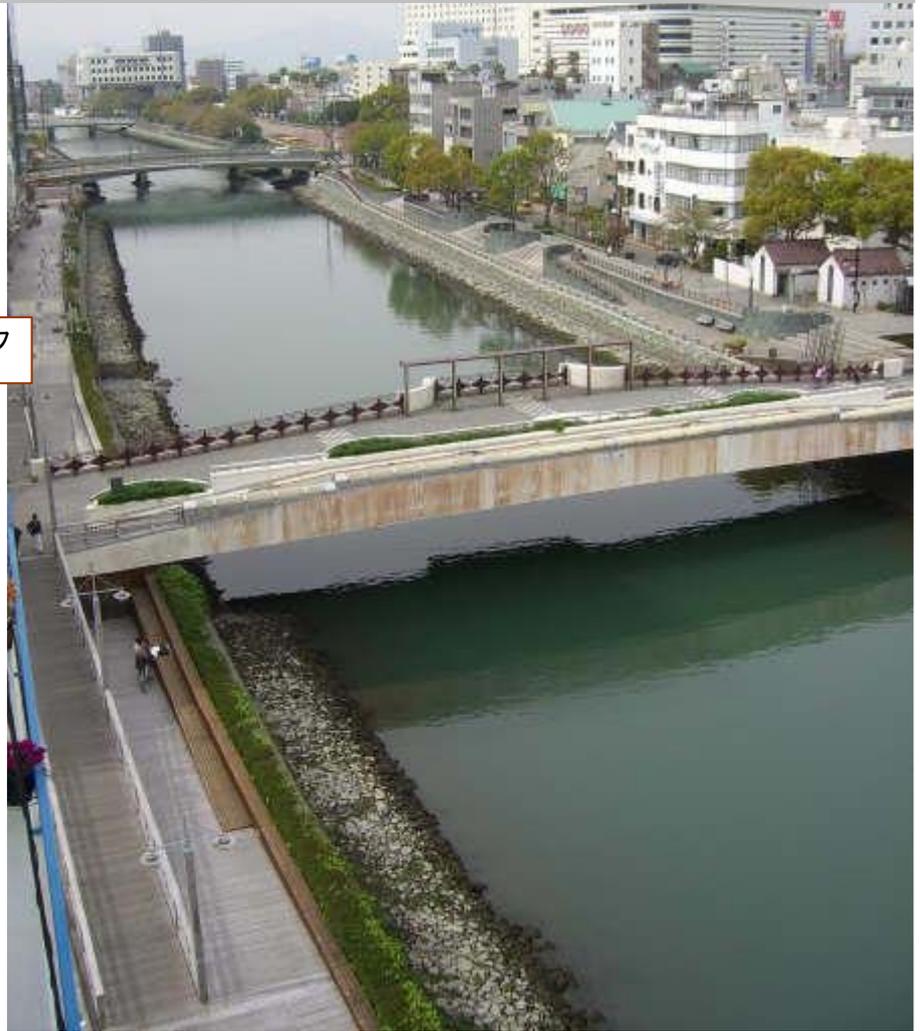
河川景観の特徴：水と触れあいと賑わいのある景観

工種：公園、階段護岸、ボードウォーク、船着き場

デザインキーワード：まちづくり事業との連携

ボードウォーク

河川単独では、周辺施設等を活かした景観整備に限界があることから、河川事業とまちづくり事業と連携する。



提供：(財)リバーフロント整備センター



提供：三宅正弘

河川周辺に賑わいのある空間を創出し、都市の人の流れを誘導するためにボードウォーク(木製の遊歩道)を整備する。ただし、ボードウォークは、本来海辺に使うものであり、耐久性に問題がある。使用にあたっては十分に配慮する。

## 写真



ボードウォーク整備前（左）  
写真右側はやや人工的な感がある。  
出典：ふるさとの川をつくる



ボードウォーク施工後（左）  
提供：(財)リバーフロント整備センター



川に顔を向けた建物  
川に賑わいをもたらすことによって川に  
背を向けた店が、顔を向けるようになり、  
川の魅力が一層アップする。  
提供：三宅正弘



ボードウォーク  
木製の遊歩道。ボードウォークではパソ  
ルショップが毎週末に開催されている。  
提供：三宅正弘



ボードウォーク対岸の護岸  
親水性を高めている。  
提供：(財)リバーフロント整備センター

### 河川整備と街の活性化

「NPO法人新町川を守る会」が  
結成され、清掃活動から始まり、そ  
の後、「ひょうたん号」(中型船、無  
料)を運行し、川、街の活性化を促  
進させている。インフラの整備だけ  
では、良い景観は生まれない。



提供：(財)リバーフロント整備センター

## 図面

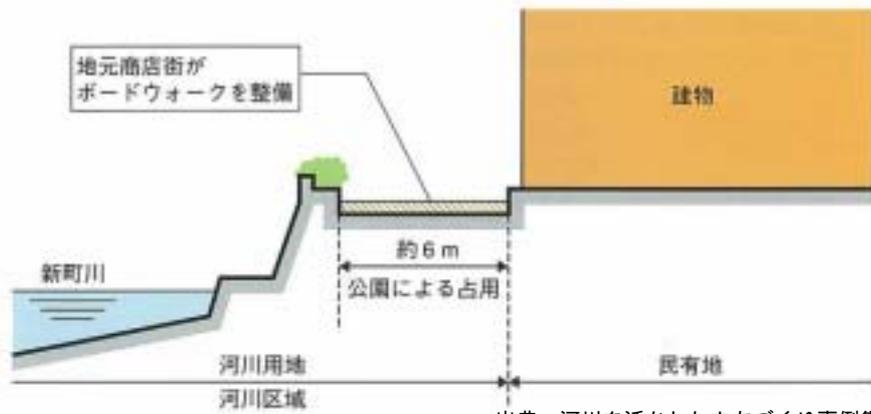
平面図



出典：河川を活かしたまちづくり事例集

断面図

●東船場ボードウォーク



出典：河川を活かしたまちづくり事例集